

基本目標Ⅰ 創造する力と生きる力、感性豊かな子どもを育む

Ⅰ-1. 就学前の子どもたちが文化に触れる機会の重点的な創出

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)						
31	子育て施設課	人形劇の実施	I-1			○					各所で活動している人形劇団による、保育所11園での人形劇鑑賞。演目は「おひさま劇場」から2題で、文化性の高い内容のもの。各保育所等で上演することで、子どもたちに鑑賞機会を提供する。	・行事や感染症の流行期と重ならないように実施時期の調整が必要。 ・実施劇団の選定。	就学前の子どもたちが文化に触れる機会の提供継続に努める。											人形劇団クラルテ	990	子どもたちに生のお話を肌で感じてもらえるよい機会である。事業の運営に関しては、所長代理会にて協議しながら協働団体と内容等を決めている。	A		○		
31	文化国際課	きしわだアートプロジェクト 就学前児童へのアウトリーチ事業	I-1	I-2		○					アウトリーチ事業として、就学前の幼児が所属する施設にアーティストを派遣し、参加体験型の演劇ワークショップを実施。演劇の表現者が、子ども達の豊かな想像力を引き出し、アートに触れる感動や喜びを体感してもらう。市立保育所6か所(参加者人数: のべ239人)	実施劇団の選定及び受け入れ先と劇団との調整。	就学前児童の豊かな発想を伸ばしていくプログラムを提供していく。	○	○									毛帽子事務所	999	昨年度と同じ劇団が担当することで昨年の経験を活かし、幼児の発達に合わせたワークショップを実施できた。今後とも継続するとともに内容を充実させ、定着させたい。	S		○		
31	図書館	読書活動事業	I-1	I-3	I-4	○	○			○	4か月児を対象に、絵本や子育てに関する情報をブックスタートセットとして1,219人に配付した。市内小学校のうち22校を訪問し、お話配達を実施した。市内各図書館において、お話会127回、工作等の祝日おたのしみ会31回、科学実験教室4回等、子ども向け行事を計178回開催した。	スマートフォン等のモバイル機器の普及により、子どもがその年齢にふさわしい物語に読み浸る余裕がなくなっている。	子どもが読書に親しむきっかけとなるよう、今後も、ブックスタート事業、市内小学校へのお話配達、市内各図書館におけるお話会等を続けていく。	○	○	○	○		○				健康推進課、子育て施設課	岸和田市子ども文庫連絡会、図書館ボランティア「だっこ」等	1,682	ブックスタート事業、お話配達、お話会を実施することにより、子どもの健やかな成長に欠かせない、読書に親しむ環境づくりにつながっている。	A		○		

Ⅰ-2. 子どもたちに対する文化プログラムの充実

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)						
31	生涯学習課	子どもの居場所教室事業(図工)	I-2				○				常盤地区公民館を利用し、長期の休み以外の毎週土曜日(第4土曜日は休講)2時間程度、図工教室を開講している。	継続的な指導者の確保。	子ども一人ひとりに感受性や社会性が身についていると感じられるような教室を目指す。	○	○	○			○		○				256	子どもが感受性や社会性を学ぶ場となっている。	A			○	
31	生涯学習課	少年教室事業(ジュニアオーケストラ・陶芸)	I-2				○				子どもたちが余暇に、文化活動を通じて、仲間づくりと併せて友情を育み、豊かな心を養うことを目的に、少年教室を開講している。陶芸・ジュニアオーケストラを市立公民館で、長期の休み以外の毎週土曜日に2時間程度開講している。	公民館講座など、類似の活動との調整が必要。	子ども一人ひとりに感受性や社会性が身についていると感じられるような教室を目指す。	○	○	○	○		○						895	学校外で継続的に取り組める文化活動の機会として重要である。また、異年齢交流の中で、人への思いやりやコミュニケーション力が培われている。	A			○	
31	生涯学習課	公民館親子文庫事業	I-2	I-3			○	○		○	読書を通し市民同士がふれあいを深める場とするとともに公民館活動の振興、充実を図るため、図書の貸し出し、整理、読書指導、おはなし会、・お楽しみ会等を行っている。光陽おやこ文庫(22回775人)、城北おやこ文庫いずみの会(39回106人)、光明とんぼ文庫(44回3,182人)に委託し実施。その他新条なかよし文庫でも実施している(令和2年度から委託契約開始)	・参加者の減少 ・後継者不足	実施場所である公民館、近隣の小学校、保育園、保育所と連携を取りながら、文庫活動の活性化を図る。	○					○			○				151	31年度から年1回の交流会を文庫活動のある地区館で開催。直接他の文庫の様子を見ていただく良い機会となった。	A			○
31	図書館	自動車文庫事業	I-2	I-3			○	○	○	○	図書館から距離のある地域に20ステーションを設け、移動図書館車で出向き、資料の貸出し、返却等の業務を行っている。また、蔵書の限られたチビッコホーム39か所、公共施設11か所には毎月、幼稚園13か所・保育所等12か所には年3回配本を行い、その充実を図っている。	ステーションの中には利用の少ないところがある。移動図書館車が老朽化しつつある。	利用向上のため、中期的には、ステーションの見直しを図る。	○					○				なし	15,005	図書館から距離があり、図書館に行くことが困難な市民に読書の機会を提供している。	A			○		
31	八木市民センター	学級講座等運営事業	I-2	Ⅱ-1	Ⅱ-7		○	○		○	定期(4講座)・短期(12講座)講座および高齢者大学・女性学級を開設・運営した。また、登録クラブと協働し、公民館まつりや講座を実施した。	・参加者の固定化が見受けられる。また、主体性を発揮するための仕組みが必要。	講座内容を見直し、既存の活動とつなげるなど、事業の活性化を図る。	○	○	○	○		○		○	町会回覧板	生涯学習課	登録クラブ	1,126	講座、クラブとも幅広い年齢層が参加し、文化や芸術に親しむことができた。参加者の意欲を高めるための講座内容の見直しや工夫が必要。	A			○	
31	桜台市民センター	学級講座等運営事業	I-2	Ⅱ-1	Ⅱ-7		○	○		○	定期(7講座)・短期(5講座)講座および高齢者大学・女性学級・家庭教育学級(2学級)を開設・運営した。また、登録クラブと協働し、公民館まつりを実施した。	魅力ある学級講座運営	自主的な学習活動の支援継続、魅力ある学級講座の運営、現代的課題の解決につながる事業運営	○	○	○	○		○	○		○	地元町会自治会回覧	各センター、生涯学習課	公民館登録クラブ	1,087	自主的な学習活動の意欲を高めていくための支援や、地域住民の憩いの場として「お茶の間ホールコンサート」を開催している。	A			○

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)						
31	山直市民センター	学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7	○	○			○	公民館の主催講座においては、受講者アンケート等を実施し、生涯学習課や他の市民センターと調整を図り、市民のニーズに合う講座や時代の変化に対応する講座、学級を開設した。	専従職員の確保及び職員の資質の向上。	利用者団体と役割分担を明確にし、時代の変化に対応するよう見直しを図っていく。	○	○	○	○		○		○	○	地元町会 自治会回覧	生涯学習課	公民館登録クラブ等	1,159	地域住民が様々な学習を手軽に行える機会や場が提供出来ている。	A		○	
31	春木市民センター	学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7	○	○				第5回公民館分館まつりを、クラブ員による実行委員会形式で取り組んだ。クラブ員の自主性と参画意識を高め、地域住民へは、公民館活動の理解を深めることによって、地域における文化交流、仲間づくりをめざしている。地元幼稚園の参加によって、地域における交流がすすむように期待している。	①実行委員会が運営する力を高める②参加者(各クラブ)の自主的な参画意欲を高める	実行委員会の企画力・運営力を高め、行政主導から市民主導へとシフトしていくことにより、各クラブ活動の本旨である自主運営・文化活動の充実・発展、地域コミュニティの醸成につながる。	○	○	○	○		○			○			公民館分館まつり実行委員会 (公民館登録クラブ等)	0	公民館まつりの開催は5回目となり、昨年度に引き続き、2度目の実行委員会形式にて取り組んだ。まだまだ、参加者の意識を高める必要性はあるが、今後、さらに組織体制(しくみづくり)を定着させていくことで、事業実施の安定を図る。	A		○	
31	春木市民センター	学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7	○	○			○	市主催の定期講座・単発講座(親子対象講座、子ども対象講座、発声講座、男性向け料理講座、体操講座、バレンタインコンサート等)・女性学級を開催し生涯学習の機会と場を提供している。	限られた予算で、より多くの世代や市民に公民館を利用してもらうための事業を検討する。	講座内容については、利用者のニーズに添った企画を検討するとともに、地域の特性を活かした事業を展開する。	○	○	○	○		○		○				1,305	各種講座については、利用者層の拡大につながるような工夫や取り組みが、より必要と思われる。	B		○		
31	東岸和田市民センター	学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7	○	○	○	○	○	公民館定期講座で成人対象の「ワンストロークペインティング」を実施し、年間225名の参加。小学生対象の「キッズアトリエ」は年間169名の参加。11月に開催の「ミニ発表会」では公民館登録クラブや定期講座生による作品展示や、一般参加の創作体験、秋の体験講座受講生による手品や大正琴の発表を行い、2日間の来場者数105名。公民館活動の成果を地域に知ってもらう機会となっている。	市民のニーズに応じた公民館活動を充実していく。	生涯学習課や利用者団体等と協議しながら、運営を行なっていく。	○	○	○	○		○		○	○		生涯学習課	公民館登録クラブ等	975	市民の生涯学習の場、地域コミュニティ活動の拠点としての役割を果たしている。	A		○	
31	文化国際課	アートマルシェ	I-2	II-6	IV-1	○	○			○	市民が文化芸術にふれるきっかけづくりを目的としたワークショップ。8月(2日間)に開催。8月は子ども向け、3月は大人向けといったように、毎回講座内容を変えて実施。(参加者8月232名、3月は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為に中止(184名の申込あり))	講座によって申込み状況にばらつきあり。定員割れにより開催出来なかった。内容が分かりにくい講座名があり、申し込みに影響。講座名に工夫が必要。	文化芸術に触れるきっかけとする事業で、多様なプログラムの充実を図っていく。マンネリ化を防ぐため新たな分野のワークショップを開拓したい。また、プロの芸術を間近に触れる機会も作りたい。	○					○		○	○		育成団体、当館を利用している教室、他	183	年々定着してきており、リピーターも多い。より幅広い世代に楽しんでもらえるようなワークショップを今後も企画したい。	A		○		

I -3. 小中学校などの学校教育機関における文化事業の推進・充実

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)						
31	学校教育課	読書活動事業	I-3				○				小中学校における読書活動をさらに推進し、児童生徒の読書意欲、読書週間を形成することや、読書活動の企画や立案、読書活動への支援や相談、学習に関する資料の提供、提案を行う学校図書館コーディネーターの派遣。(小学校週2回、中学校週1回)	限られた予算の中で小中学校への派遣をいかに安定させ、充実させていくかが課題。	中学校の派遣回数を伸ばしたい。また、図書館業務を円滑に進め、活用状況を把握・分析できるシステムの導入を検討したい。								学校だより 図書館Co.だより			13,205	子どもへの読書活動の推進のため、充実に努めているが、人材の確保や限られた予算など工夫をしていく必要あり。	B		○			
31	学校教育課	幼・小・中学校所属児童作品展示	I-3				○	○			市立幼稚園、小学校、中学校、高校に所属している児童・生徒の作品等を、市役所の廊下に掲示。HPIにも掲載している。	期日通りの回収・返却に時間がかかるので、掲示の入れ替えを頻回に行うことが難しい。	今後も、子どもたちの作品を掲示し、学校園での教育活動を市民に知ってもらう機会を提供する。	○	○	○				○			広報広聴課		0	掲示作品を保護者等が観に来てくれる機会が増加している	A		○		
31	選挙管理委員会	選挙常時啓発事業 啓発ポスター募集	I-3				○				岸和田市内の小・中学校及び産業高校に対し、明るい選挙啓発ポスターの作品募集を行い、入選作品については府民センタービルに展示している。	岸和田市内の各学校に依頼をしているが、参加する学校にばらつきがある。	今後も継続して事業を行い、明るい選挙に向けた啓発を進める。	○	○	○				○			公益財団法人 明るい選挙推進協会 都道府県選挙管理委員会連合会 大阪府選挙管理委員会	58	毎年多数の応募があり、明るい選挙について推し進めることができています。	A		○			
31	人権教育課	人権教育・人権啓発事業	I-3				○			○	人権を守る作品展、巡回人権を守る児童・生徒作品展、いじめ問題啓発児童・生徒作品展	子どもたちの人権意識の育成を図る	子どもたちの人権意識の育成を図るとともに、児童・生徒等によるポスターや標語を展示する「人権を守る作品展」などによる啓発を充実させます。	○	○	○				○		人権・男女共同参画課	岸和田人権協会	163	多くの市民が、児童生徒の作品や展示されている人権の取組に関するパネルやポスター等を鑑賞。来場者アンケートでは、「とてもよい啓発になっている」などの感想を多数いただいている。	S		○			

													文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体								
年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報 きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)	事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
31	産業高校学務課	岸和田市産業教育フェア(デザインシステム科卒業制作展)	I-3				○				岸和田市立産業高等学校全学科の取組みを紹介するとともに、令和元年度卒業のデザインシステム科生徒による卒業制作作品展示及び舞台発表(ファッションショー)を実施。3年間の学びの集大成としてクラス統一テーマを掲げて作品制作を行い、企画・広報・運営など生徒主体で取り組んだ。在籍生徒、家族をはじめ、広く社会に向けて鑑賞の場として提供している。	作品展示の魅せ方、舞台発表の開演前・終演後の誘導については安全性に配慮することを第一に、スムーズな運営を目指し改善していきたい。	年々、生徒の意欲や作品の精度が向上している。これまでの実施状況を踏まえ改善すべき点は改善し、生徒が3年間で身に付けたデザインに関する知識や技術を表現する集大成の場として活用していきたい。	○	○	○			○	○		○				0	企画・広報・運営全てを生徒が行い、クラス一丸となって取り組むことが出来ている。作品展示・舞台発表ともに満足できる結果となった。	S			○
31	人権教育課	泉支研 学習発表会	I-3	II-2			○		○	○	各学校の支援学級在籍児童生徒が、劇や歌、運動などを通して、今まで学習してきた成果を発表する。	お互いのがんばりを認め合う。他校との交流を図る。	日頃の学習成果を発表することで、達成感や自信につながるように促していく。また、さまざまな学校が集まることで交流が深まるようにする。	○	○	○								泉南地区支援教育研究会	440	一生けん命学習してきた成果を発表することで、児童生徒の自信につながっている。また、保護者の参加が多数あり、子どもたちに対し、これまでの努力を褒めるなど、あたたかい言葉かけがある。	S			○	

I -5. 子どもたちの文化活動への育成・支援

													文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体								
年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)	事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続
31	文化国際課	チャレンジ支援事業	I-5				○			小・中学校のクラブ活動団体が、コンクールに参加する場合、本番に近い環境を経験することで、日常の練習の成果が本番に活かされるようホールの使用を提供する。平成25年度より実施している。平成31年度利用団体数は3、利用件数は8。	事業の対象がはっきりしているため、通知文を送付し、周知に努めているが、各校の関係者にどの程度周知されているか不明。	コンクールに挑戦する団体が、この事業を活用し、本番で日頃の成果を発揮されたい。					○					○	年に一度、対象校に案内文を送付			0	本番に近い環境を整え、提供できた。来年度は、周知方法を工夫し、たくさんの学校・クラブが参加できるよう努めたい。	A			○
31	文化国際課	育成団体支援	I-5	IV-1			○		○	3つの育成団体(合唱・吹奏楽・演劇)の活動を支援し、団体の質の維持及び向上を図るため、指導者への謝礼を支払う。また、定期発表の場を設け、日常の成果を市民に還元するための公演を実施している。	団体が安定的に活動をしていくためには、一定数の団員数が必要。	各団体の活動が、当課の活動をこえて、市内の各所で展開できるよう、団体の存在や活動を広く知ってもらう。	○	○	○			○	○		○			岸和田市少年少女合唱団、岸和田市音楽団、マドカドラマスクール	1,422	定期公演時にアンケートを実施し、必ず結果を報告してもらうようにした。団体のレベルを維持していくため、今後も連携を密にしていき、支援を続けていきたい。	A			○	

I -6. 国際交流の推進

													文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体								
年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)	事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続
31	文化国際課	青少年海外派遣事業	I-6				○				青少年海外派遣事業として、姉妹都市である米国サウスサンフランシスコ市へ青少年15人を派遣した。各場面において、パフォーマンスの実施や、現地高校生との交流を通じて、異文化理解を推進している。	全体スケジュールの都合上、限られた事前研修・練習回数で一定のレベルに上げる必要がある。	この事業を通じて、青少年が国際交流に積極的に参画するとともに、岸和田市の文化等の魅力を再発見できる事業としたい。				○		○			○		学校教育課・岸和田市立産業高等学校	岸和田東ロータリークラブ	6,467	全員合唱、グループで踊り・音頭を行った。ほぼ計画通りに活動を行い、青少年も限られた時間の中で精一杯成果を残すことができた。	A			○
31	産業高校学務課	高等学校教育振興事業	I-6				○				2009年に姉妹校締結を行ってから10年目の節目の年を迎え、姉妹校である韓国ソウル特別市永登浦(ヨンドンポ)区漢江(ハンガン)メディア高等学校より生徒10名、引率者4名が来校。ホームステイ、授業、フィールドワーク等の体験を通し、親睦を深めるとともに異文化交流を推進した。	さらなる生徒数の増員が可能かを検討。	事業の内容を工夫、充実させ継続				○									748	参加した生徒の満足度は高い。今後も継続して実施する。	A			○

基本目標Ⅱ 輪を広げる

Ⅱ-1. 発表・鑑賞機会の充実

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)					
31	市民病院(経営管理課)	ギャラリーでの作品展示	Ⅱ-1			○				○	市民病院の廊下にあるギャラリースペースに、就学前児童が作った美術作品を展示。就学前児童の発表の機会であるとともに、来院される方々には子どもの感性が活かされる作品を鑑賞する機会となっている。	展示作品入替え時のスケジュール調整	今後も引き続き展示を続けていく			○	○								0	来院された方で、立ち止まって眺めている姿をよくみる。子どもの季節に応じたかわいらしい作品に多くの方が癒されているのではと考えられる。	A		○	
31	自治振興課	平和推進事業 子ども平和映画会	Ⅱ-1				○			○	児童及びその保護者に対し、映画を通じて平和の尊さを再確認していただく。今年度は、「白旗の少女 琉子」を上映し、会場では平和に関するパネル展示を行った。入場者数は421名。	開催日の天候が悪く、少子化の影響もあってか、例年入場者数の減少がみられる。	今後も映画を通じて、児童や保護者に平和の尊さを再認識していただく事業の一つとして継続し、平和推進を図っていく。							○					1,656(総額)	参加者数が天候の悪さもあり減少し、今後も少子化の影響で減少すると思われる。これからも若い世代に平和推進をしていくことが必要である。	A		○	
31	自治振興課	巡回平和パネル展	Ⅱ-1							○	市民センター5カ所と市役所新玄関の計6カ所で、「ヒロシマ・ナガサキ原爆」に関するテーマとしたパネル展を巡回した。	市民センターのロビー等に展示しているため、実際の来場者数を把握することが難しい。	市民にとって、より身近な施設で開催することで、多くの市民に鑑賞いただくとともに、非核平和への意識が高揚していく機会としていく。				○			○				1,656(総額)	広島・長崎両方の被爆地の資料を展示したため、有意義な展示になった。	A		○		
31	自治振興課	平和推進事業 非核平和資料展	Ⅱ-1				○			○	長崎原爆に関する展示(長崎原爆資料館から借用)、平和バスの事業報告、現物資料、戦時中の岸和田に関するパネル、小・中学生が書いた平和に関する作品等を展示。また、オープニング式典では土生中学校合唱部の合唱、朗読劇(サルビア)、正置友子氏による講演会(絵本学研究所・青山台文庫主宰)を実施。来場者数615名(延べ5日間)。	非核平和資料展のテーマに苦慮している。	市民が「戦争の悲惨さ」や「核兵器の恐ろしさ」を知り、平和の尊さを認識してもらう。				○	○			○			平和を考える戦争展実行委員会	1,656(総額)	長崎原爆資料館所蔵パネル、正置友子氏所蔵書(戦前・戦中・戦後の絵本)を借用して展示できたため、非常に有意義な資料展を開催することができた。	A		○	
31	市民病院	ロビーコンサートの実施	Ⅱ-1							○	市民病院ロビーの空間を使い、主に入院されている患者様およびそのご家族を対象に、演奏会を開催することにより癒しのひと時を提供する。年2回開催。	開催は夏や冬なのでロビーの温度調節を細かく設定する。	鑑賞者により楽しんでもらうよう、細かな課題を改善しつつ、継続して開催する。				○	○			○			病院ボランティアグループ	13	院内のあらゆる部署と協力し開催できている。	A		○	
31	人権・男女共同参画課	人権を守る作品展開催事業	Ⅱ-1				○			○	12月の人権週間に向けて、「人権尊重」をテーマにした作品(ポスター、標語)を募集して、入選作品を12月に「人権を守る作品展(会場:マドカホール)」で展示するほか、1月、2月に「人権を守る作品展巡回展示(各市民センター)」で展示。マドカホールでの来場者は令和元年度は1,146名。	子どもは学校を通じて多数出品されるが、市民の作品応募が少ない。	引き続き作品展を開催することにより、人権啓発が図られる。作品応募について、市民協議会人権部会への案内を実施する。	○	○	○			○	○		○	人権協会や人権啓発企業連絡会に周知	人権教育課	岸和田市人権協会	96	作品の制作に取組んでいただき、またその作品を展示し市民の方々に見ていただくことで、様々な「人権」に触れ、大切なことに気づききっかけづくりとなっている。	A		○
31	文化国際課	岸和田市市展	Ⅱ-1							○	美術に関する分野(洋画・陶芸・書・日本画・写真・俳画)の公募展を行い、その審査結果を踏まえて、毎年11月に受賞作品のみを集めた展示会を行っている。今期は染織部門は休止となった。市展:総出品点数373点、総来館者数2,477人 受賞作品展:出品点数58点、来館者数410人	高齢化に伴う作品と来館者の減少。若い世代の出品数が少ない。	若い世代の出品を促す。	○	○	○			○		○	○			市展委員会	1,637	昨年度より出品数・来館者数は減少したものの、概ね見ごたえのある展示となった。	A		○
31	文化国際課	岸和田市文化祭	Ⅱ-1				○	○		○	自主的に岸和田市民が行う文化活動の成果を発表する機会をつくり、発表者と鑑賞者相互の交流を深めることにより、文化活動に対する意識の高揚と、文化の振興を図ることを目的とする。展示部門:参加団体24団体・出品者数4,641人、舞台部門・参加団体15団体・出演者数1,850人、来場者総数20,011人	1団体が新規参加するも、参加団体の固定化と伸び悩み。参加者も学生と高齢者で2分化されており、中間層の参加が少ない。	引き続き、教育委員会と連携して、幼児や小中学生の参加を継続していく。中間層の参加を促すために、後継者の育成が必要。	○	○	○	○		○	○	○	新聞折込	教育委員会	文化祭実行委員会、文化祭サポーター	2,212	昭和23年から続いている文化祭は、市民の文化活動の成果を発表する場として定着しており、参加団体も多く、一定の成果をあげている。	A		○	
31	生涯学習課	公民館まつり事業	Ⅱ-1	I-2	Ⅱ-7					○	日頃の活動成果の発表・展示の場、自主的な企画・運営の場や、団体相互及び地域と運営の場や、団体相互及び地域との交流の場、また、来場者に生涯学習のきっかけを提供する場として開催し、あわせて、公民館利用のなお一層の活性化を図る。	実行委員会形式で当課が事務局となり協働して開催しているが、役員の担い手の減少や行政と市民役割分担のあり方が課題である。	公民館まつりのあり方について、平成27年度、28年度に検討し一定の結論を出しているが、今後も引き続き公民館まつりのあり方、内容等について検討する。	○	○	○	○			○			公民館まつり実行委員会(市立公民館クラブ、利用団体)	41	事業の運営に関しては、実行委員会形式をとり、協議しながら内容を決めているが、役員の担い手が減少している中協議も行政主導となっているため市民の役割とのバランスが難しい。	A		○		

													文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体								
年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)	事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続
	31	生涯学習課	フレンドシップコンサート事業	II-1	I-5		○			○	青少年音楽団体の研鑽と交流を図り、地域の音楽活動を推進するとともに、青少年文化の向上を図ることを目的とし、6月に浪切ホールにて開催している。参加団体(市内の学校や青少年による吹奏楽・合唱グループ等)で構成する実行委員会が企画・運営を行っている。	実行委員会による自主的、主体的な企画・運営を目指しているが、団体の役割分担の調整が必要。	より一層、参加団体が主体となり、企画・運営ができるようにしていく。	○	○	○	○		○				○	フレンドシップコンサート実行委員会	576	実行委員会形式で運営することにより、青少年と成人それぞれの活動団体の交流となり、青少年にとっては、未来の活動の支えとなっている。		A			○
	31	文化国際課	マドカ合唱祭	II-1	II-5		○			○	市内各所で活動している合唱の団体に、発表の場を提供するとともに他団体との交流を促進し、合唱活動を盛んにする。また、オープニングには一般の個人が参加できる機会を設けている。エンディングは、会場全員での大合唱で締めくくった。参加団体29団体(520人)、入場者数500人。	事業のPR、観客マナーの向上、出演者の高齢化への対応。7月下旬開催のため、暑さ対策が課題。台風など自然災害時のシミュレーションが必要。	事業の内容を工夫、充実していき、合唱祭の活性化を図る。	○	○	○	○		○		○	○		マドカ合唱祭実行委員会	145	事業の運営に関しては、実行委員会形式をとり、協議しながら内容を決めている。委員、また参加団体の意欲を高めていくため、仕組みづくりの強化が必要。		A			○
	31	人権・男女共同参画課	男女共同参画センター・大宮地区公民館合同まつり事業	II-1	II-5	II-6	○	○		○	男女共同参画センター・大宮地区公民館で活動している各団体から実行委員を募り、市民主導の実行委員会形式で運営。登録団体の発表・展示・交流の機会としている。地域の団体からの協力も得、広く市民(子どもたちも含む)の交流の場となるよう努める。	・事業のPR方法	事業の内容を工夫し、より多くの参加者を呼び込めるようPR方法を工夫し、地域を含めた館の活性化を図る。	○	○	○	○		○			○	大宮地区市民協議会 等	0	事業の運営に関しては、実行委員会形式で協議しながら内容を決め運営している。今後は各団体からの積極的な参加を促せる仕組みづくりが必要。		A		○	○	

Ⅱ-2. 高齢者、障害者等の文化活動の充実

													文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体									
年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)	事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続	
	31	障害者支援課	地域生活支援事業(ふれあい作品展)	II-2			○		○		障害者週間において、障害児(者)の作品を展示する作品展を開催し、障害児(者)への理解を市民に広めるとともに、障害児(者)の社会参加の機会を広げることが目的としている。 参加者(出品者)数…(児)590人、(者)8人	休日に開催してほしいとの要望がある。	作品展における作品展示等は、例年通り実施することとする。(但し、新型コロナウイルス感染拡大状況により開催方法の変更或いは中止とすることがある。)休日開催の要望については今後検討していく。	○	○	○	○		○				○	市情報誌「ばっとみい」		(作品を出品する)市内小・中学校、支援学校	178	作品展は本課が企画・運営しており、展示の際は本課職員、出展学校の職員や出展する障害者が協力し、円滑に展示できている。	A			○
	31	図書館	障害者サービス事業	II-2					○		視覚障害者に、年4回「新着図書案内」を録音し、郵送している。視覚障害者及び高齢等により文字を読むことが困難な人には、録音図書・点字図書を貸し出し、また、対面朗読を実施している。録音図書1,956点、点字図書166冊貸出。対面朗読45回実施。身体障害のため来館が困難な人には、資料を宅配又は郵送している。34回宅配	対面朗読を受ける人が限られている。	視覚障害者、文字を読むことが困難な人の教養・レクリエーション等に資するため、障害者サービスを継続していく。	○				○				○				岸和田市視覚障害者協会、朗読ボランティアひばり等	329	視覚障害者及び高齢等により文字を読めない人にとって、図書館の障害者サービスは、教養・レクリエーション等のため必要不可欠なものである。	A			○
	31	福祉政策課	介護予防事業【高齢者趣味の作品展事業】	II-2	II-7				○		高齢者(岸和田市内に在住する概ね60歳以上の者)の豊かな経験と知識を活かし、生きがいや文化水準の向上、社会参加の促進を図るため、趣味の作品(短歌、俳句、川柳、俳画、書、陶芸、写真、絵画、手芸)を募集し、11月12日～14日の3日間、浪切ホールにて展示を行っている。	限られた予算での事業のため、展示会場の設営準備作業等を外注できず、苦慮している。	更なる世代間交流(特に若い世代)を図れるよう、事業内容を工夫、充実していく。	○	○	○	○		○	○	○	○				450	幅広く認知された事業であり、継続していくことが必要。	A			○	
	31	福祉政策課	介護予防事業【生きがいと健康づくり推進事業】	II-2	II-7				○		高齢者(市老連に加入する単位老人クラブを対象)の社会活動や地域活動、スポーツ・文化・娯楽活動等の健康増進活動の促進を図っている。	趣味の多様化のため、一部では、限定された参加者での活動となっている。	主体的に活動する人員への支援、育成及び世代間交流を図る。	○	○	○	○				○	○		市老連及び他の単位老人クラブ	2,990	各単位老人クラブにおいて、低予算のなか、創意工夫を図り実施している。また一部では、世代間交流を目的とした「お餅つき」や「七夕笹飾り」なども実施されている。	A			○		

Ⅱ-3. 国内外の演奏家や芸術家による演奏会や展覧会の開催

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)
31	文化国際課	文化の日の祝典	Ⅱ-3	Ⅳ-2						○	11月3日文化の日に、本市の文化教育の振興に貢献した方々の功績をたたえ、祝典を開催。1部では功績のあった方々への表彰式、2部では関係者以外も鑑賞できる記念事業「不思議大好き！イリュージョンマジック」を開催。1部出席者数253人、2部入場者数330人。	祝典を広く周知するため、年代を問わず一般の方も関心を持てるような記念事業の企画が必要。	若い方の表彰も増えてきており、文化交流も活発になればよい。また、「文化の日」にふさわしい事業を企画し実施していくことで、文化の推進に寄与していく。						○		○	○		教育委員会	岸和田文化事業協会	340	2部では、一般の方の関心も高く、参加申し込みも多く、大人から子どもまで広く市民に文化に触れ、楽しんでいただくことができた。	A		○

Ⅱ-4. 文化団体への支援

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)				
31	文化国際課	文化団体支援事業	Ⅱ-4							○	特定のジャンルに限らずに包括的な取り組みをしている岸和田市文化協会、岸和田文化事業協会の活動を支援し、多くの市民が参加できる取り組みを協同して推進している。	後継者となる若い世代の育成が必要	各文化団体の特色を生かした活動を今後も継続し、団体の活動内容を広く知ってもらう。	○	○	○	○			○	○	○			2,410	団体活動の一部を支援できた。	A		○

Ⅱ-6. 文化交流の促進

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)					
31	図書館	ブックフェスタ事業	Ⅱ-6	Ⅲ-5					○	○	まちライブラリー、公共図書館、書店など「本がある場所(ブックスポット)」が協力し、それぞれの場所で本にまつわるイベントを開催する。①ブックフェスタ2019in関西 H31.4.21～R1.5.19 7イベント開催 94名参加 ②岸和田ブックフェスタ R1.10.27～12.15 10イベント開催 121名参加	イベントの広報を、冊子・チラシの発行、ホームページ等で行っているが、行きわたるのは難しい。	本をとおして人と人とがつながるイベントを、参加者自身が企画し主体的に参加することで、新たな出会い、学び、つながりの場をゆるやかに形成していく。	○	○	○	○		○	○			都市計画課、産業政策課、生涯学習課	和歌山大学岸和田サテライト	0	市民や関係者が、本を持ち寄り、関心があるテーマのイベントに参加することで、人々の交流の場となり、地域を知るきっかけづくりとなっている。	A		○

Ⅱ-7. 生涯学習の推進と地域コミュニティの活性化

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)				
31	図書館	図書館まつり開催事業	Ⅱ-7			○	○	○	○	○	年に一度、市民団体と協働で図書館まつりを開催し、古本市、お話し会、工作会、小物づくり、缶バッジづくり、ビブリオトーク合戦、手話体験等を行っている。	図書館まつりを担う市民団体の構成員が高齢化している。	図書館まつりの構成内容を、市民にとって魅力ある内容となるよう努めてゆく。	○	○	○	○		○					岸和田市図書館友の会、岸和田市子ども文庫連絡会等	0	図書館を利用したことのない市民が図書館に来るきっかけづくりとなっている。	A		○

													文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体											
年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)	事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続		
31	図書館	読書会支援事業	II-7							○	○	読書会の会員が、一つの図書を読み、意見・感想を述べ合うなどして内容を深く掘り下げている。図書館は、同じ図書が会員に行き渡るよう、岸和田市立図書館だけでまかなえないときは、他市図書館から借り受けるなどして提供している。	読書会の会員が、固定化・高齢化している。上松西読書会は、令和元年10月、高齢化による会員減少のため解散した。	誰もが参加しやすい体制づくりを指導してゆく。	○												若葉読書会、上松西読書会、星和台読書会	0	読書会に資料を提供することで、会員の教養・レクリエーション等に資することにつながる。	A			○	
31	生涯学習課	学び舎プログラム 学び舎ネットワーク（市立）	II-7								○	市内5か所の市民センターと市立公民館を拠点とし、全世代を対象とした講座及び地域の人材育成に関する講座・イベントを実施する。市立公民館で「アナログ盤レコードで聴くQueen～スタジオアルバム全15作品を辿る～」を行い、リバイバルブームのアナログレコードをツールにQueenの楽曲を楽しみ、当時の時代背景や社会的マイノリティの話なども学んだ。	公民館事業を知ってもらうために集客を見込める事業を行う必要があるが、事業費が低額のため有名な講師になかなかお願いできない。	全世代を対象とした、公民館を広く知ってもらえる活動を行っていく。				○			○	○		○			planning ROCKETS、音レコスタッフ	100	音楽を聴くだけではなく当時の時代背景やメンバーの意外なエピソードなども深く掘り下げてくれ、聞いた曲がまた違った趣になった。これを機会に公民館に他の講座にも参加してくれるようになった人もいた。	S				○
31	生涯学習課	学び舎プログラム 学び舎ネットワーク（旭）	II-7								○	市内5か所の市民センターと市立公民館を拠点とし、全世代を対象とした講座及び地域の人材育成に関する講座・イベントを実施する。31年度は、旭地区公民館（東岸和田市民センター）で「スーパーストリングスコーベと公民館クラブ新春コンサート」を行った。第1部は公民館クラブの発表会、第2部はスーパーストリングスコーベのコンサートをした。	公民館事業を知ってもらうために集客を見込める事業を行う必要があるが、事業費が低額のため有名な講師になかなかお願いできない。	全世代を対象とした、公民館を広く知ってもらえる活動を行っていく。			○	○			○		○			公民館登録活動団体、スーパーストリングスコーベ	100	公民館の活動団体が複数参加申し込みをしてくれ、選抜を行うまでとなった。当日は館を越えてクラブ同士の交流が生まれていた。スーパーストリングスコーベも有名であり、普段公民館に足を運んでももらえない方にも多数申し込んでいただけた。	S				○	

基本目標Ⅲ まちの魅力を高める

Ⅲ-1. 歴史や文化財等への理解の促進と活用

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続	
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)							
31	観光課	城周辺整備計画推進事業	Ⅲ-1							○	石畳と淡い街灯まちづくり支援事業により整備された岸和田城周辺地区において、まち歩きイベントなどのソフト事業を実施することで、交流人口の増加による賑わいの創出に取り組んでいる。「おおさか都市魅力・観光ネットワーク会議」へ参加し、大阪府との連携を図っている。	次期岸和田城周辺整備計画の策定	ソフト事業を継続実施するとともに、次期計画の策定については、市庁舎建替えの方向性が示されたことにより、休止していた本計画も再開していく。						○	○					水とみどり課、郷土文化課	岸和田市観光振興協会 大阪府	0	市庁舎建替えの方向性が示されたことにより、休止していた本計画も再開していく。	A			○
31	郷土文化課	郷土資料等展示事業	Ⅲ-1							○	岸和田城展示室において、郷土の歴史・文化を主テーマとした展示を実施。常設展に加えて、年2回の企画展を開催。	展示内容の充実化	来場者に対して本市の歴史・文化を紹介することで、文化財を通じて本市の魅力を周知し、郷土愛を育む活動を行う。						○	○	○	○				5,317	来場者の増加のために、理解しやすい説明キャプションを作成する等、工夫を行った。また、本市としては初の試みである他団体との共催事業として展示を行い、より一層周知をすることができた。	A			○	
31	郷土文化課	郷土文化普及事業	Ⅲ-1							○	岸和田城展示室において、実施した企画展に合わせたかたちで歴史講座を2回開催した。	歴史講座の周知	市内にある文化財に説明板を設置し、文化財を周知するだけでなく、観光資源の一つとして活用していく。収蔵品の台帳作成を行い、郷土資料を広く公開し、郷土の歴史をより深く理解してもらえるように努める。						○			○				185	岸和田城で実施する企画展と合わせたかたちで歴史講座等を開催し、より企画展を分かり易いものとしていく。	A			○	
31	郷土文化課	濱田青陵賞事業	Ⅲ-1							○	平成31年度は、東京大学総合博物館、米田稔教授が受賞した。米田氏の研究は考古学に寄与する関連諸科学、特に同位体比による人骨分析が目され、異例の受賞となった。これにより考古学のみならず関連諸科学でも受賞対象となることが明確になり賞の今後の広がりを示す好例となった。シンポジウムも理化学的分析から見える日本の縄文社会にスポットをあてた。	受賞者や、テーマによって、客数が大きく変化すること。周知対象の拡大。	考古学の学術文化賞では最高位の賞であり「考古学の芥川賞」と呼ばれる賞として、現在の認知度、ネームバリューを活かした、観客のさらなる裾野の拡大をめざす。						○	○	○	○				朝日新聞大阪本社生活文化部	2,342	岸和田市が全国に誇るべき学術文化賞であり、市の文化水準の向上に貢献している。また、朝日新聞社との協働により紙面提供を受けるなど、非常に低予算で実施できている。	A			○
31	観光課	岸和田城管理事業	Ⅲ-1	Ⅲ-4	Ⅲ-5					○	お城まつりの期間中に野点や邦楽の演奏会を実施。こどもの日にもイベントを実施。また、天守閣望楼においては、岸和田城ウエディングを通年実施している。指定管理者の自主事業として岸和田城デジタル掛け軸や明智光秀肖像画展示を実施した。	利用者が伸び悩んでいる。施設設備の老朽化が顕著である。	指定管理者と連携し、イベントの企画実施や雑誌やメディア等を活用した情報発信を図り、安定した集客が期待できる施設を目指していく。						○	○	○	○		水とみどり課・郷土文化課	岸和田市観光振興協会	53,807 (指定管理料含む)	岸和田城は、本市のシンボルであり歴史・文化・観光の拠点として位置づけられており、関係機関とも連携し、岸和田城の付加価値を高める取り組みを行っていく必要がある。	A			○	

Ⅲ-2. 伝統行事の保存・継承

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価				
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)						
31	観光課	だんじり祭支援事業	Ⅲ-2							○	観光客の受入れ体制として、イラストマップや交通規制チラシの作成や仮設トイレ、臨時駐車場等を設置。ゴミ問題対策としてクリーンキャンペーンの強化など啓発活動に努めている。	観光客の一極集中化 ゴミ・トイレ・駐車場などの受入れ環境の整備	観光客の受入れ体制を整えるとともに、だんじり祭を側面・後方から支援することによって、明るく楽しい市民の祭りにしていく。	○	○	○	○		○	○	○	○		岸和田市観光振興協会、岸和田地車祭保存会、祭礼各団体	39,868	伝統的地域文化の継承を図るとともに、市民はもとより観光客に気持ち良く楽しい祭と感じてもらえるよう、関係団体とも連携し、祭の一層のブランド力の向上を目指す必要がある。	A			○	
31	郷土文化課	文化財保存支援事業	Ⅲ-2				○			○	主に民俗文化財等の継承のための補助金の交付。	少子化に伴い後継者の育成が困難になっている。	指定文化財が後世へ、よりよいかたちで保存・継承していけるように、保存会ならびに所有者への支援を継続していく。	○	○	○	○		○					2,773	所有者との連携の強化、保護意識の醸成。	A			○		
31	観光課	だんじり会館指定管理事業	Ⅲ-2	Ⅲ-5						○	だんじりに関するワークショップや講演会などの開催、「だんじりカット・編み込みスタイル」写真展や「だんじりタオル展」、「新春きしわだ和太鼓フェス」を実施し、だんじり祭に関する文化を様々な視点からアピールし、祭り当日だけでなく楽しめるだんじり祭の情報発信に努めた。	入館者数の停滞 施設設備の老朽化	指定管理者と連携し、全国的に知名度のある「だんじり」という他にない資源を最大限に魅力発信し、年中通じて活用できるブランド化に取り組む。						○	○	○	○		岸和田市観光振興協会 祭礼関係団体	63,138	入館者数が伸び悩んでおり、だんじり会館の魅力を国内外に発信することで、一層の観光客の誘致に取り組む必要がある。	A				○

Ⅲ-3. 自然環境や景観との調和

													文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体								
年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)	事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
	31	丘陵地区整備課	丘陵地区整備事業	Ⅲ-3						○	本事業では都市・農・自然が融合したまちづくりを推進しており、事業の一環として丘陵地区に生息するフクロウをシンボルとして里山環境の再生保全を目的としてフクロウの森再生プロジェクトを実施している。自然エリアの良好な里山環境の保全と創出を目指して、ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会と協働で森林レクリエーションイベントを開催した。	・広報活動の強化	継続してイベントを実施することにより、市民の自然への関心を高める。							○	○					ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会	0	イベントを通じて、取組みの趣旨を伝えることには一定の効果があつた。今後は市主導の運営体制から協議会主体で取組みを進めてもらえるような組織体制の構築が必要。	A		○
	31	環境課	自然環境保全事業	Ⅲ-3						○	里山保全のボランティアに関心のある人に対し、里山及び里山保全活動に関する知識及び技術の基礎を講習することで、里山保全活動の担い手を育成した。	年々、講座参加者が減少しており、広報きしわだ等だけの募集以外も視野に入れる必要がある。	里山保全活動の担い手が増え、活動の活性化を目指す。						○			○		NPO法人 神於山保全くらぶ	237	今後も市民、ボランティア、行政が協働で自然豊かな里山を維持していく必要がある。	A		○		
	31	環境課	環境保全事業	Ⅲ-3						○	・きしわだ環境フェア2019の開催 環境の保全に関する取り組み等の展示を実施することにより、来場者に啓発を行った。参加協力団体10団体、来場者数はスタッフ60名を含み約3200人。	環境保全に取り組んでいる団体とのつながり。 開催地の選定。	環境に対する市民意識の高揚を促すため、今後も多岐にわたる分野での啓発を実施したい。	○	○	○	○		○	○		○		郷土文化室	大津川水域水質保全対策協議会、きしわだ自然環境クラブ、岸和田市消費生活研究会、神於山保全くらぶ、岸和田野鳥クラブ、大阪湾環境保全協議会、岸和田市漁業協同組合、岸和田市食生活改善推進協議会、シャープ社友会チーム神於山、岸和田女性会議	244	商業施設で多くの来場者に啓発を行うことができた。 今後も関係団体と連携し、活動を継続する必要があると考える。	A		○	
	31	都市計画課	景観形成事業	Ⅲ-3						○	「ここに残る景観資源発掘プロジェクトの実施」住み良い文化的で潤いのある美しいまちを創出するため、岸和田らしい景観を保全形成を目指す啓発事業の取組の1つとして、ここに残る景観資源発掘プロジェクトを実施。令和元年度は、「まち景観」について、応募件数40件の中から、まちかど審査(市内9か所延べ1315人)により10箇所を景観資源として指定し、PRを実施。	より良い景観形成に資する取組について啓発が十分であるとは言えない。	様々な情報ツールを活用して、広報を強化するとともに、観光・教育や環境部局との連携を図り、幅広い年齢層への啓発を図っていきたい。						○	○	○	○	テレビ岸和田番組表(Vision)	各市民センター、図書館、産業高校学務課	和歌山大学、観光ボランティア協会、商工会議所、テレビ岸和田	973	応募件数は開催年度によってばらつきがあるが、まちかど審査は周知されてきており、今後も啓発に努めたいと考えている。	A		○	
	31	都市計画課	歴史的景観保全支援事業(家屋修景助成)	Ⅲ-3						○	住みよい文化的で潤いのあるまちを実現するため、歴史的まちなみ保全地区における家屋修景に対して支援を実施。	建築基準法の形態規制を遵守しつつ、本町の歴史的まちなみの特徴を備えた建築物に調和させることが困難な状況にある。	歴史的まちなみやこれと一体となり歴史的景観を形成している環境を保全し、住みよい文化的で潤いのあるまちを実現するため、歴史的まちなみ保全地区において家屋修景への支援を継続して行う。						○	家屋修景に対する助成			歴史的町並み保全基金運営委員会	5,565	歴史的まちなみ保全地区において家屋修景を行うことにより、歴史的景観を形成している環境を保全し、住みよい文化的で潤いのあるまちの実現に寄与している。	A		○			
	31	郷土文化課	自然資料館普及・展示事業	Ⅲ-3			○	○		○	身近な自然の多様さを学び、郷土の自然と自然保護への理解を深め、地球環境や自然科学についての関心を高めるため、野外観察会や室内講座、展示等の事業を多数実施した。本年度は船の科学館による「海の学びミュージアムサポート」を受け、人々にとって身近なタコとタコツボを紹介する特別展を開催した。	・就学前児童向けプログラムの拡充 ・学校園との連携強化 ・常設展示の更新とそれを活用したプログラム開発 ・SDGsに向けた取り組み	事業内容の質的向上および就学前児童向けプログラムの充実に引き続き取り組み、自然環境や科学技術、博物館、SDGsに関心を持つ市民の増大を図る。	○		○	○		○	○	○			近隣博物館、NPO大阪自然史センター、きしわだ自然友の会等	8,541	助成金の活用により、特別展を新機軸の展示とすることができ、広報手段も大きく改善した。	A		○		
	31	環境課	まちを美しくする市民運動推進事業	Ⅲ-3	Ⅱ-1	Ⅰ-5				○	まちの美化、青少年の健全育成、緑の保全及び推進について標語・ポスターを募集。標語164点、ポスター336点の応募があり、標語20点、ポスター40点を選入作品とし、表彰及び展示を行った。	特段なし	市内各校から広く応募できるように工夫しながら、応募数が増えるようにしたい。	○	○	○		○			各学校に応募依頼文書を送付		まちを美しくする市民運動推進協議会	269	市内の各団体で組織されている協議会の取り組みが理解され、市民に広がることを期待するためには有意義な事業であると認識している。	A		○			
	31	都市計画課	歴史的景観保全支援事業(団体活動支援)	Ⅲ-3	Ⅲ-5					○	住みよい文化的で潤いのあるまちを実現するため、歴史的まちなみ保全地区において景観啓発に寄与する団体(本町のまちづくりを考える会)の活動に対して支援を実施。本町のまちづくりを考える会では、4月に「にぎわい市」を開催したり、随時歴史講座等のイベントも開催している。	支援している団体における役員の高齢化が進んでおり、世代交代を模索するが円滑な役員就任がなされていない。	自主運営を基本としつつも、担い育成や世代交代に関する情報を収集するなど、きめ細やかな情報提供を実施すべき。	○	○	○	○		○	○	○			本町のまちづくりを考える会、歴史的町並み保全基金運営委員会	100	対象団体の支援を実施することにより、歴史的まちなみ保全地区における景観啓発が実施され、住みよい文化的で潤いのあるまちの実現に寄与している。	A		○		

Ⅲ-5. イベントを活用した魅力あるまちづくり

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価		自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)						
31	企画課	中心市街地活性化事業	Ⅲ-5							○	岸和田市中心市街地活性化基本計画に沿って、各種事業を推進している岸和田TMO(商業まちづくり機構)、商工会議所等との共同事業として開催するイベントへの参画。	岸和田TMOとの関わり方や、部会事務局としての役割について整理が必要。	関係各課と連携し、中心市街地の活性化が図れるよう支援していく。	○	○	○	○		○			○		産業政策課・都市計画課	岸和田商工会議所	0(TMO支援事業として産業政策課の支援有)	各種事業について、庁内関係部局と連携しているところではあるが、より効果的な取組を実施するため、更なる連携強化が必要。	B		○	
31	広報広聴課	シティセールスプラン推進事業	Ⅲ-5							○	市民を対象にSNSを活用した市の魅力発信を目的に、岸和田の食材を使った料理の盛り付け方と写真の撮り方教室「おいしい写真教室」を開催。12人参加。 また、インスタグラムによる「第2回きしわだフォトコンテスト」を実施。応募件数674件。	フォトコンテストについては、入選者に偏りが生じる。講座に関しては、講師の確保や事業の周知方法に課題あり。	市民のみならず、岸和田が好きな「岸和田のファン」を増やしていきたい。岸和田に対する無関心層の人々に、岸和田のファンを通じSNSを活用し本市の魅力を広げていきたい。	○	○	○	○		○			○				2,425	フォトコンはHPとインスタのみでの周知で実施したが、前年度並みの応募件数があった。「おいしい写真教室」は、岸和田の食と写真による魅力発信に効果があったと思われる。	A		○	
31	自治振興課	市民活動団体支援事業	Ⅲ-5				○			○	市民フェスティバル・中央公園にて開催。参加団体に模擬店、展示、フリーマーケット、地場産業振興等の場を提供し、岸和田市民相互のふれあいの場とし、市民参加の祭りの場として豊かで暮らし良い町づくりに寄与し、地場産業振興に貢献することを目的とする。	事業を運営している実行委員会メンバーの高齢化が進み、担い手の育成が必要。	事業の内容を工夫や充実させ、市民フェスティバルの活性化を図る。	○	○	○	○		○			○		岸和田市民フェスティバル実行委員会	1,700	事業の運営、及び活動に対して補助金交付を行っており、概ね適正に活用している。	A		○		
31	都市計画課	街づくり支援事業	Ⅲ-5				○			○	日常生活の中で誰もが利用する「駅」周辺を、地域住民を含めた関係者(鉄道・バス事業者、商店街、学校等)と行政が協働して「美しく個性がきらめき、魅力ある空間に再生」し、まちの活性化につなげていくプロジェクトを実施している。4月に「ハンキングバスケット講座」を行い、作成したバスケットを約1ヶ月育て、5月の「ガーデニングショー」で展示し駅周辺の活性化を促進している。	地域住民の参加者の高齢化が進んでおり、世代交代を進める必要がある。また、運営資金が減少してきている。	地域住民へのPRをより行い、参加者の世代交代を進める。市民団体等と運営資金等についても話し合いながら、地域住民の交流の促進や、駅周辺の活性化を進めていく。	○	○	○	○		○			○		東岸和田市民センター	旭・太田市民協議会、旭校区連合町会、太田校区連合町会、リハープ全体管理組合、大阪府岸和田土木事務所	846	ハンキングバスケット講座では、地域住民同士の交流を促進し、また、小中学生達の文化事業の充実にも寄与している。ガーデニングショーでは駅周辺の活性化に寄与し、毎年楽しみにしている住民も多くいる。	A		○	
31	農林水産課	農業振興事業	Ⅲ-5				○	○		○	市民の農業に対する理解や認識を深め、農業振興に資するため農業まつりを開催する農業者の表彰、展示即売会、試食会、ステージ企画等を行い、農産物等の紹介、農林業の啓発と都市住民との交流等の機会の提供 入場者数は約8,000人	ステージ参加者や入場者のための駐車スペースが確保できない。参加団体には相乗りするなどの協力を依頼しているが、徹底されていない。	企画内容の工夫などをしていき、農業まつりの活性化を図る。			○				○		○	農協の広報誌	都市計画課	JALいずみの・大阪府・農業委員会・農業研究クラブ協議会・果樹振興会・林業活性化協議会・岸和田市漁業協同組合 他19団体	2,000	岸和田市において農業は主要な産業のひとつであり、その振興は今後益々重要である。参加団体の意欲を高め、より協働できる仕組みづくりが必要。	A		○	
31	産業政策課	港振興協会助成事業	Ⅲ-5							○	「みなとオアシス岸和田登録記念 岸和田港まつり」として、NPO法人等の協力団体とともに花火大会だけでなく日中からイベントを実施した。観覧客は花火大会実施時で約25,000人。体験航海は巡視船の派遣ができずに中止。	協賛企業の新規開拓と個人寄付の増収。花火大会実施場所の確保もしくは他のメインイベントを検討する。	①令和元年度は打上げ場所を変更して開催したが課題が残った。花火の打上場所を再検討する必要がある。 ②令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。今後の実施手法について要検討。					○	○	○	○		○	○	観光課、スポーツ振興課	(公社)岸和田青年会議所、岸和田商工会議所女性会、(NPO法人)ここからKit、きらっと泉州☆育実行委員会、南海・TVKグループ、岸和田カンカンベイサイドモール、大阪府鰯巾着網漁業協同組合、ウェイクボード関西、岸和田市観光振興協会	19,199	港まつりは岸和田の夏の風物詩として定着しており、集客力のある人気の事業である。体験航海も毎回定員を大幅に上回るたくさんの応募があり、抽選となっている。	A		○
31	観光課	観光振興事業	Ⅲ-5							○	お城まつり、もみじまつりといった季節に応じた観光イベントを実施した。また、外国人観光客集客実現のために岸和田城周辺インバウンド観光推進事業を実施した。さらに、岸和田城等においてWi-Fi環境を整備するなど、観光客の利便性及び周遊性の向上に取り組んだ。	魅力ある地域資源の利活用が不十分である。プロモーションをはじめとする効果的・効率的な情報発信が出来ていない。	平成28年度に策定した「第2次岸和田市観光振興計画」に基づき事業を推進していく。	○	○	○	○		○	○	○	○		岸和田市観光振興協会 岸和田商工会議所	30,129	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光を取り巻く状況は著しく変化しており、時流に対応した観光振興施策に取り組む必要がある。	A		○		
31	産業政策課	商工業振興事業	Ⅲ-5	Ⅲ-6						○	①地場製品や特産品の展示・販売を目的に、産業フェアを開催。来場者数は約11,000名、出展事業者数は27であった。 ②「演歌力」の発信を目的に、きしわだ歌謡祭を開催。入場者数は2,005名であった。	効果的な集客やPR手法の検討	集客等に注力しながら、事業を実施する			○	○	○		○		○	○		岸和田商工会議所等	4,232	地場産業のPRIに、一定の効果があったと考える。	A		○	

Ⅲ-6. 伝統工芸品の価値発信、新産業の創出

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)					
31	産業政策課	岸和田ブランド事業	Ⅲ-6							○	岸和田らしさを備えた優れた産品を岸和田ブランドとして認定し、情報発信や販売促進を推進することで岸和田市の知名度向上を図っている。令和元年度は新たに2品目を新規認定し、23事業者24品目となった。イベントでは高松宮記念杯岸和田競輪G1等に出展した。体験の場として、認定品の工場を巡る工場見学ツアーを開催した。また、岸和田ブランドのロゴマーク等をデザインしたラッピングバスの運行を開始した。	岸和田ブランドのロゴマークの周知	岸和田ブランドのさらなる認知度向上のために施策を展開していく。				○	○	○	○	インターネットテレビ「岸和田TV MODE」		岸和田商工会議所、岸和田観光バス㈱等	2,002	岸和田ブランドの認知度のさらなる向上のため、多くの人の目に触れるように各種イベントへの出展を行っている。	A		○		
31	産業政策課	中小企業支援事業	Ⅲ-6							○	岸和田産の木綿を使用した商品の製作や販売を行い、木綿物語フェアを開催した。引続き包近の桃で染めた綿製品の販売やPRに注力している。コットンサミットに関しては今年度開催がなく参加できなかった。	商品の効果的な周知方法	引き続き、包近の桃で染めた製品の販売やPRに取り組み、岸和田の繊維産業の活性化を図る。							夢つむぎ会HP等		岸和田商工会議所、夢つむぎ会	295	かつて泉州で盛んだった繊維産業の活性化に寄与している。	A		○			
31	産業政策課	伝統工芸品振興事業	Ⅲ-6							○	展示、体験を実施し、売上向上と伝統工芸の周知を図った。	売上が減少し大阪市内大手百貨店での催事開催が困難になってきたので、他の方法を検討する。	伝統工芸である桐箆笥の周知や価値の発信に努める。			○	○	○		○		大阪伝統工芸品展推進委員会他	212	岸和田の伝統工芸の担い手が育っている。	B		○			

基本目標Ⅳ 未来へつなぐ

Ⅳ-3. 情報の収集、発信

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価				
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)						
31	全課	情報の収集、発信	IV-3							○	文化に関する公演・講座・各種イベント等を周知するため、広報活動として市内公共施設でのポスター・チラシの配架、HPでの告知に努めた。また、特に文化施設3館では、市内外の関連公演等の情報発信に協力している。	多種多様な情報の収集、発信の手法について検討する必要がある。	今後も継続するとともに、情報発信と収集の手法については検討が必要。					○	○	○	○	○				0	現在、各課が中心となって広報に努めている。また、文化に関する情報を発信する立場からはいかに収集と発信をしていくかを検討課題としていく必要がある。	B			○

Ⅳ-4. 文化振興基金の活用

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)						
31	文化国際課	文化振興基金の活用	IV-4							○	文化振興基金は、文化施設の修繕やソフト事業の実施に活用されている。現在、岸和田市ふるさと寄附金事業のなかの一つの選択肢として文化振興基金が位置付けられている。ふるさと寄附金事業を案内するチラシがあり、担当課が中心となって広報活動を行っている。(アートマルシェ事業費・本市育成団体の指導者謝礼・展示場内サイン購入)	原資の確保と、基金の周知活動。	寄附者の満足度を高めていく活用方法を検討していく。						○	○			○		企画課		1,628	現在、ふるさと寄附金事業の周知方法はチラシ・専用ポータルサイトがある。また、基金の活用結果も同様に行っている。	A		○